

硬貨

加藤 誓 (ちかい)

2週間前の中日新聞に「今年の硬貨の製造枚数は過去最低の6億3千枚で、最高だった平成15年の半分、今までの最低、平成23年の8億枚をも下回る。キャッシュレス決済が3割を超えた。」との記事が出ていた。

キャッシュレスではないが、私もドラッグストアでは、端数はポイントを利用しお釣りで硬貨が増えないように心掛けている。

我が家では、がま口財布が電話台に置いてあり、そこに硬貨を入れている。以前は、それも一杯となり、別の袋にも入れていた。溜まると、女房が郵便局へ持って行き預け入れをしていた。

今年の1月から、硬貨の両替やATMでの利用は、手数料がいることとなり硬貨を貯めないようにと、女房は支払いに小銭を使うようにしているようだ。

手数料はよく分からないが、噂によると600枚両替するのには、手数料1,100円もかかるのか。500円硬貨ならまだしも、5円玉だと三分の一の目減り、1円玉600枚だと1,100円支払って両替金は600円。500円のただ損。これはおかしい。



これでは誰も1円玉の両替はしなないと思うが、神社のお賽銭は一体どうなっているか、1円玉で保管とする訳にもいかないが。

そこで氏子の方に聞いてみた。「一時は、1円玉の手数料0円の

枚数を毎日JAに持って行ったがこれも大変。今は、諦めて手数料を払っている。大部目減りしていると思うよ。そうそう、この前、ビニール袋に1円玉が一杯入ったお賽銭があった。預け入れするとマイナスになりこれは困る。一々枚数を数えるわけもいかないしね!」「コロナの影響でお賽銭や御寄進も減り、その上換金で減り、キャッシュレスの賽銭でも考えないと、なき泣き面に蜂だわね。伊勢神宮や熱田神宮など大勢の方が仕えているところはそりゃあ、もっと大変だろうね!神頼みしないといけないかも!」

先日、がま口財布から小銭を取った。その中に真ん中が少し黒っぽい二重の円をした新500円硬貨があるのに気付いた。これは珍しいと思い、他にも珍しい硬貨はないかと、以前より少なくはなったが硬貨の山の一枚一枚を眺めてみた。昭和64年と平成元年の1円玉を発見。(時価20円?)平成元年の5円玉も出てきた。10円玉が揃うと時価500円、10円玉の元年は見つからなかった。残念!この様なレア硬貨には特に興味もないが、インターネットで調べるとマニアも結構いることに驚いた。硬貨の山を更に調べていくと古いのは、1円玉で

昭和47年(結婚)、5円玉昭和37年(大学1年生)、10円玉では昭和38年(東京オリンピック)50円玉42年(入社)。小銭を指でさすり、すり減った発行年数をじーと眺めた。

小さな硬貨の向こうに、その年の事が鮮明に浮かび上がってきた。

これらの硬貨は恐らく何万の人の色んな人生を見てきたことだろう!

今迄硬貨には特に何も感ぜず、どちらかと言えば面倒くさいものだと思っていたが中々のものであった。

そして、童謡を思い出した。「一円玉の旅ガラス」!

